

平成26年度 千葉県立千葉中学校 学校目標及び自己評価

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組, 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員アンケート, 保は保護者アンケート, 生は生徒アンケート)	アンケート回答率			自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
					肯定的 回答	否定的 回答	わから ない等		
学校経営	1 教育目標の具現化を目指して、校内組織の運営や教育環境の活用をより効果的に、創意工夫に富む学校経営にあたる。	① 組織をより機能的にするための見直しや会議・打ち合わせ等の効率化を図る。 ② 高等学校との連携を密に行い、よりよい中高一貫教育の実現に努める。 ③ 保護者・地域との連携を密にして、より開かれた信頼される学校づくりを推進する。	① 職員アンケートの結果及び実施状況の把握 ② 職員アンケートの結果 ③ 保護者アンケート、地域懇談会の評価及び開かれた学校づくり委員会の評価の結果	職 ① 組織をより機能的にするための見直しや会議・打ち合わせ等の効率化を図る。	69.2% -16.5 (下段は 昨年比)	30.8%	0.0%	① 組織をより機能的にするよちがあると考える職員が多く、更に工夫と普段からの教員間の連絡・連携が必要である。 ② 開校7年目となる今年度は、PTAの中高統合など、中高一貫の組織づくりは定着してきた。しかしながら、職員・生徒・保護者のアンケートの結果、否定的な回答が約半数あり、「中高一貫の特色を生かした教育活動」という点では十分とは言えない。中高一貫の特色を生かすためには、職員の共通理解を十分に図る必要がある。 ③ 地域の方々との関わりについては、職員・保護者の意識と生徒の意識に隔りがあるが、1年次に行われる千葉県立中央図書館の見学、校外学習(千葉県立中央博物館)がアンケート実施後の行事のため、数字に反映されていないと考えている。文化的施設での学習機会は着実に増加している。	① 組織をより機能的にするための見直しや会議・打ち合わせ等の効率化を図る。 ② 英語科で実施している合同教科会議を他教科にも広げ、高等学校との連携を密に行い、よりよい中高一貫教育の実現に努める。また、合唱祭を一部中高合同にすることを検討する。 ③ 全県から生徒が集まる本校にとっては、とても難しいことではあるが、保護者・地域との連携を密にして、より開かれた信頼される学校づくりを推進する。
				職 ② 高等学校との連携を密に行い、よりよい中高一貫教育の実現に努める。	38.5% +9.9	53.8%	7.7%		
				職 ③ 保護者・地域との連携を密にして、より開かれた信頼される学校づくりを推進する。	53.8% -10.4	38.5%	7.7%		
				生 ② 学校周辺地域(文化的施設)での学習や人々とのふれあい	46.9% +3.9	53.1%			
				保 ① 学校は近隣地域との交流等を通して、開かれた学校づくりに努めている。	61.2% -10.7	26.6%	12.2%		
				保 ① 保護者への連絡や、保護者面談は適切に行われている。	87.3% -5.3	11.6%	1.1%		
学習指導	1 基礎学力の定着を図りつつ、生徒の学ぶ意欲が高まる授業を展開する。	① 生徒の実態に即し知的好奇心を刺激し、自ら学ぶ意欲を喚起する授業を目指す。 ② 思考を促す課題を工夫し、グループ活動等を通して互いの考えを交流することで、考える力を育てる授業を行う。 ③ 授業研究等を通して常に授業改善を図る。	① 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果 ② 職員、保護者によるアンケートの結果 ③ 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果及び研究授業や研修会等の実施状況	職 ④ 生徒の実態に即し知的好奇心を刺激し、自ら学ぶ意欲を喚起する授業を目指す。	92.3% +6.6	0.0%	7.7%	① 各教科の学習過程において、実験、ポスターセッション、寸劇、プレゼンテーション、レポート作成を行うなど、各科目の特性に合った言語活動を取り入れ理解度を高めるよう工夫した。職員、生徒、保護者アンケートでは概ね肯定的な結果を得ている。 ② 1～3年で実施している社会科校外学習では、班ごとに活動レポートを協同作成している。このように知識のみで結論の出る内容ではなく、様々な知識を用いつつ思考を重ねることに時間を費やす指導を、各科目の特性に応じてそれぞれ実施した。職員、保護者アンケートで概ね肯定的な回答であった。 ③ 保護者対象の授業参観を年2回(5月、11月)、全日3日間学年毎に実施。その際に教職員も互いの授業を参観するように努めている。また、県内外からの視察、海外からの視察に乗じた授業公開を行った。職員アンケートでは、授業研究を通して授業改善を図っていることに肯定的な回答が増加しているが6割にとどまった。	① 生徒の実態に即し知的好奇心を刺激し、自ら学ぶ意欲を喚起する授業を目指す。 ② 思考を促す課題を工夫し、グループ活動等を通して互いの考えを交流することで、考える力を育てる授業を行う。 ③ 千葉中学校での教育の柱である「授業」について、職員の共通理解を十分に図りつつ、業務内容の Slim 化が図れるよう各分掌、職員打合せで検討し、授業研究等を通して常に授業改善を図る。
				生 ① 千葉中の授業は楽しい。	89.7% +0.2	9.9%	0.4%		
				生 ① 私は、授業に積極的に取り組んでいる。	78.5% -3.5	19.8%	1.7%		
				生 ① 家庭で、授業の予習・復習に取り組む習慣が身についている。	86.7% +1.4	12.9%	0.4%		
				保 ⑤ 学校は、揺るぎない学力を基礎として幅広く深い教養を育成する努力をしている。	89.9% -4.9	7.9%	2.1%		
				職 ⑤ 思考を促す課題を工夫し、グループ活動等を通して互いの考えを交流することで、考える力を育てる授業を行う。	84.6% -1.1	0.0%	15.4%		
				保 ⑩ 授業の方法、教員の教え方について満足している。	88.4% -5.9	7.9%	3.7%		
				職 ⑥ 授業研究等を通して常に授業改善を図る。	61.5% +11.5	15.4%	23.1%		
				生 ⑦ 千葉中の授業はわかりやすい授業である。	89.7% +2.8	9.9%	0.4%		
				保 ⑪ 十分な準備に基づいた、生徒の知的好奇心を喚起する授業が展開されている。	87.4% -9.1	7.4%	5.3%		
学校経営	1 生徒の自主性を育てるとともに、集団の一人としての自覚と責任感を持たせ、他者へ配慮する心と態度を身に付けさせる。	① ゼミ・生徒会活動を通して、学習や行事等に対して自主的かつ積極的に取り組む姿勢を育てる。	① 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果	職 ⑦ ゼミ・生徒会活動を通し、学習や行事等に対して自主的かつ積極的に取り組む姿勢を育てる。	61.5% -17.1	38.5%	0.0%	① ほぼ全ての項目で、肯定的な回答になっている。目標を概ね達成できたと考えられる。しかし、ゼミや生徒会活動に関しては、改善する余地がある。	① ゼミ・生徒会活動を一層活性化させ、学習や行事等に対して自主的かつ積極的に取り組む姿勢を育てる。
				生 ② 総合的な学習の時間「ゼミおよび千葉中アカデミア」	79.8% -4.7	20.2%			
				生 ② 自然教室	93.5% -1.4	6.5%			
				生 ② 国内語学研修(3年生のみ)	95.0% -0.5	5.0%			
				生 ② 伝統文化学習(2・3年生のみ)	91.5% -4.1	8.5%			
				生 ② 文化祭	89.3% -6.9	10.7%			

平成26年度 千葉県立千葉中学校 学校目標及び自己評価

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組, 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	学校評価アンケートにおける該当質問項目 (職は職員アンケート, 保は保護者アンケート, 生は生徒アンケート)	アンケート回答率			自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)		
					肯定的 回答	否定的 回答	わから ない等				
生徒指導				生 2 ⑩ 飛龍祭 (体育祭・球技大会)	84.0% -1.0	16.0%					
				生 2 ⑪ 合唱コンクール (合唱祭)	85.3% -5.9	14.7%					
				保 1 ⑧ 生徒は、学校生活に満足し、授業や行事に積極的に参加している。	94.7% -1.8	5.3%	0.0%				
				保 1 ⑫ 学校は、授業や学校行事を効果的・計画的に進める努力をしている。	90.5% -3.7	6.3%	3.2%				
				職 ⑧ リーダーとして必要な基本的生活態度や規範意識等を身に付けさせるとともに、健全な批判精神を養う。	61.5% +18.6	38.5%	0.0%			② 基本的な生活習慣や規範意識等を身につけさせるという項目について、肯定的に回答した職員が増加し、生徒の肯定的な回答との隔たりがほぼ無くなった。しかし、他の項目に比べると、まだ低く、改善する余地がある。	② 学習活動や生徒会活動を通し、リーダーとして必要な基本的な生活態度や規範意識等を身に付けさせるとともに、健全な批判精神を養う。
				生 ⑤ 先生は、生徒の自主性、自律性を育てる努力をしている。	76.2% +0.4	16.9%	6.9%				
				生 ⑩ あいさつや時間を守るなど基本的な生活習慣や、マナーが身につくようになってきている。	68.2% -1.1	29.6%	2.1%				
				生 ⑪ 清掃活動や教室の美化に積極的に取り組んでいる。	73.8% -2.7	22.3%	3.9%				
				保 ⑬ 学校は、生徒の基本的な生活習慣や、マナー等について、その確立に努めている。	83.7% -4.8	12.1%	4.2%				
				職 ⑨ 自他を互いに認め合うとともに、能動的なフォローアップを育成する。	53.8% +10.9	46.2%	0.0%				
生 2 ① 友だちとのふれあい	90.9% -1.1	9.1%		③ 保護者アンケートの「他人の痛みのわかる、うるおいに満ちた人間性を育成する」に関して、保護者と職員の感じ方のギャップが大きいことがわかる。リーダー育成とともにフォローアップの育成も大きな課題である。	③ 千葉中学校の教育目標である、道徳観に満ちあふれた生徒を育てるため、様々な場面で多くの職員が生徒の面倒を見る必要がある。自他を互いに認め合うとともに、能動的なフォローアップを育成する。						
保 ⑥ 学校は、他人のいたみのわかる、うるおいに満ちた人間性を育成する努力をしている。	76.8% -7.1	17.4%	5.8%								
キャリア教育	1 キャリア教育のあり方について共通理解を図り、一層の充実を図る。	① 本校のキャリア教育のあり方について、職員、生徒、保護者間で共通理解を図る。	① 職員、生徒、保護者によるアンケートの結果	職 ⑩ 本校のキャリア教育のあり方について、職員、生徒、保護者間で共通理解を図る。	53.8% +3.8	38.5%	7.7%	① 本校のキャリア教育のあり方について、職員のとらえ方は様々で、職員アンケートの肯定的回答は約54%と低く、半数の職員が満足していない。担当している職員とそうでない職員との間に評価の差が表れていると考えられる。	① 本校のキャリア教育のあり方について、職員、生徒、保護者間で共通理解を図る。職場体験や夏季ボランティアの事前指導、事後指導を充実させる。		
				保 ⑦ 学校は、生徒の社会貢献の志を育み、自己を確立する基盤を育成する努力をしている。	81.1% -8.0	13.7%	5.3%				
				職 ⑪ 近隣地域との交流を通して、社会の一員であることの理解を深めさせる。	53.8% +18.1	46.2%	0.0%			② 職員は地域の方々との関わりがまだ不十分と感じている事がわかる。実際に行われている地域の方々との交流は、学校周辺清掃作業などの活動が挙げられるが、達成状況は満足できるものとは言えない。地域懇談会では、「千葉中高はエリートなのに挨拶や交通マナーなどが十分ではない」という意見が寄せられた。謙虚に受け止め、指導していきたい。	② 近隣地域との交流を通して、社会の一員であることの理解を深めさせる。 3年生での夏季ボランティアにおいては、高齢者施設を中心に実施し、地域との関わりを深めると共に自らの将来についても考えさせたい。
				生 1 ⑫ 近隣の地域をはじめ社会に目を向けることができる。	84.1% -4.2	14.6%					
				生 2 ③ 職場体験 (2・3年生のみ)	83.7% +0.4	16.3%					
				生 2 ④ 夏季ボランティア (3年生のみ)	88.2% +5.7	11.8%					
				保 2 ③ 職場体験 (2・3年生のみ)	90.4% -2.1	9.6%					
				保 2 ④ 夏季ボランティア (3年生のみ)	86.2% -8.7	13.8%					
				職 ⑫ 社会人講演会・職場体験・ボランティア等を通して、勤労観・職業観を深められるようにする。	61.5% -17.1	38.5%	0.0%			③ 学習指導部が立てた計画通り、社会人講演会が実施できている。また、各教科担当主導で、大学の先生に出前授業していただくなどの工夫がされており、職員・保護者の肯定的な回答が減少しているものの、概ね肯定的な回答をしている。 1学年の「ことばの授業」では読売新聞の記者に指導いただき、地域の方々へのインタビューを実施した。また、2学年の職場体験においては、従来のものに加え、昨年度より千葉地方裁判所、千葉検察庁など地域にある職場での体験を通じ交流を図ることもできた。	③ 社会人講演会・職場体験・ボランティア等を通して、勤労観・職業観を深められるようにする。
				保 ⑨ 大学の先生や企業の方などの講師による授業や体験学習	73.1% -22.3	26.9%					
生 2 ② 総合的な学習の時間「社会人講演会」	78.1% +6.0	21.9%									
生 2 ⑨ 大学の先生や企業の方などの講師による授業や体験学習	74.2% +0.4	25.8%									
特色ある活動	1 総合学習のゼミでのまとめである「千葉中アカデミア」を充実させる。 2 3年間の総まとめとなる卒論を完成させる。	① 3年間を見通したテーマと研究方法を設定させ、継続的な学習支援を行う。	① 全体発表会の実施とその内容の評価 ② 各生徒の研究についての生徒の自己評価及び顧問の評価の結果					① 昨年度から総合学習での研究を1年間とし、ゆとりをもって「千葉中アカデミア」に向けての準備がされている。これによって、生徒は調べ学習からレベルアップし、卒論へ向けて研究を続けている。しかし、生徒の中には温度差があり、研究を深められる生徒とそうではない生徒に二分されているのが現状である。	① 今年度の成果と課題を整理し、これからも継続して実施する。		